

知多半島エリア一体となった地域活性化・魅力あるまちづくりにチャレンジ!



CHITA CAT プロジェクト



発表者 中部国際空港株式会社 鈴木 健一 重野 尚之
株式会社知多半島ナビ 榊原 裕高

CHITA CATプロジェクトとは

セントレア × イオンモール常滑 × 知多半島 連携プロジェクト

～ 知多半島エリア一体となった地域活性化・魅力あるまちづくりにチャレンジ! ～

知多半島の地域活性化を目的にイオンモール常滑と中部国際空港と知多半島・常滑地域の趣旨に賛同する自治体、企業、団体等との 2015年11月に発足した共同プロジェクト。

りんくう地区、セントレア、知多半島を一体エリアとして捉え、垣根なく行き来できる環境構築や各施設等の利用促進、共催イベントの実施など、保有する有形、無形の資産をフル活用した取り組みを共同推進することにより、地域の魅力向上に積極的に寄与することを目的としている。

■ プロジェクト名

「**CHITA**」

「**C**entrair」

「**A**EONMALL」

「**T**OKONAME」

知多半島

中部国際空港

イオンモール

常滑

■ ロゴマーク



※ プロジェクト名は、地域をつなぐ象徴として頭文字から命名

背景：伝統の中に新しさが共存する多様性のある街

AICHI SKY EXPO

<愛知県国際展示場>

NEW



新しい
常滑

中部国際空港セントレア

★年間約1,350万人の来港者



インバウンド旅客

有料の空港連絡橋

りんくうエリア イオンモール常滑

★年間約850万人の来館者

常滑市街地



伝統的な
常滑



近接する性格と機能を持つ施設同士が

“競合” するのではなく、**“連携”** することで、エリア一体でそれぞれの魅力を高め合い $1 + 1 = 3$ 以上の相乗効果を出す。



プロジェクトの多様性

CHITA CAT



地域の活性化の **象徴**



小分科会

小分科会

**集客
イベント**

常滑お笑いEXPO
ねこフェスタ
セントレア盆踊り
常滑納涼花火大会
イルミネーション

**訪日外国人
おもてなし**

おもてなしツアー
CHITA CATクーポン
台湾との相互交流・
ビジネスマッチング

**往来・周遊
活性化**

無料シャトルバス
※ FC(燃料電池)バス導入

**海外への生鮮品
物流の拠点化**

知多半島の農産品を
海外へ〔検討中〕

**地域活性化という目的に資すれば、「CHITA CAT」というフィールドのもと、
細かな制約や入会金等なく誰もが活動できる組織体制。**

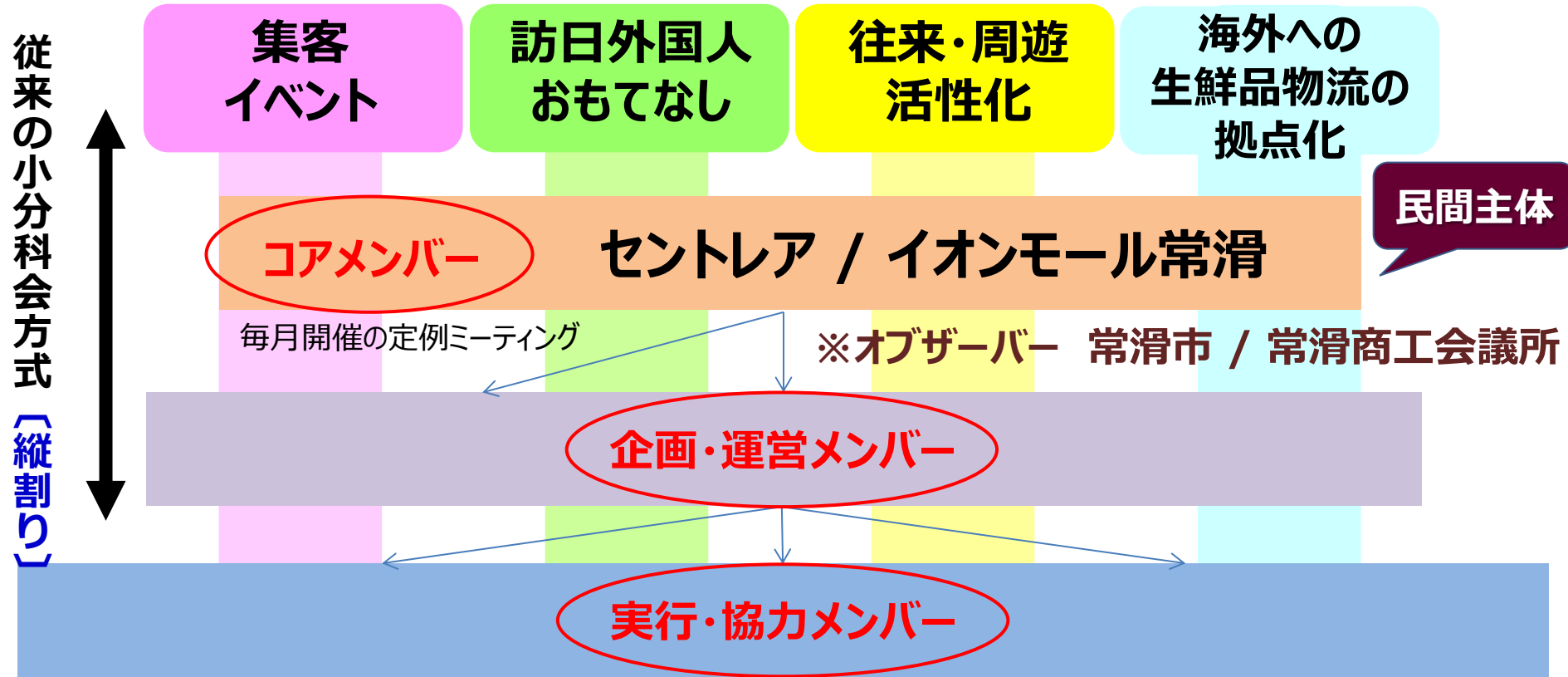
⇒ これまで周りから見ているだけといったスタンスだった地元メンバーの参入障壁を軽減

この柔軟性がもたらす効果として

**企業規模の大小、メンバーの世代や性別に関係なく、さまざまなカテゴリーで
新たな提案・取り組みも自ずと生まれ、活動の幅・連携に広がりをもたらしている。**

プロジェクトの組織体制/方向性

民間企業、行政、経済団体のそれぞれ立場での得意分野を活かし、相乗効果を発揮



常滑商工会議所会員 1,128 社のうち、協業余地のある役員、議員の所属企業 88社のうち、48社(約55%)参画

各分科会の範疇だけでなく、横断的に連携できる新たな枠組み [横連携]

コアメンバー : 民間企業ならではの発想・企画でエリアの活性化を牽引

オブザーバー : 行政、経済団体の観光振興計画・動きとの連動、市民・企業・周辺行政等との調整・支援

プロジェクトのおもな取り組み事例

～ お客様も地元市民・商店も 日本一笑顔溢れる街を目指して！～





～ 自転車・バスを活用した魅力あるまちづくり ～



セントレア ⇄ イオンモール常滑 シャトルバス運行



エリア一体を気軽に行き来できる環境整備のための無料シャトルバス

りんくうエリア
イオンモール常滑

常滑市街地

りんくうエリア・イオンモール常滑に来た
買い物客が、セントレアにも足を延ばす

有料の空港連絡橋

島内ホテル

Aichi Sky Expo

中部国際空港セントレア

セントレア到着の航空旅客、
空港島内ホテル宿泊者、
国際展示場来場者が
常滑市街地に観光に行く



無料シャトルバス概要

- 運行区間： 中部国際空港 ⇔ イオンモール常滑
- 運行開始： 2015年12月1日～
- 運行便数： 平日12往復、土日祝日27往復
- 料金： 無料
- 所要時間： 約15分
- 運行者【貸切】： 中部国際空港、イオンモール常滑
- 運行委託事業者： 知多乗合株式会社
- 乗降場所： 空港バスのりば9番
イオンモール常滑のれん街入口横
- 運行車両： 〔平日〕 路線バスタイプ56人乗り×1台
水曜日のみFC（燃料電池）バス
〔休日〕 路線バスタイプ56人乗り×1台
+ 70人乗り×1台

当初想定以上のご利用

2016年11月8日
中日新聞朝刊

2016年12月16日
中部経済新聞朝刊

目次
【林野市】

中部空港と「イオン常滑」結ぶ

シャトルバス利用好調

訪日客や買い物客 車両大型化で対応

常滑市の中部国際空港と浜田対岸部の大規模商業施設「イオンモール常滑」を結ぶシャトルバスの利用が好調だ。従来はマイクロバス（定員35人）で運行していたが、旅客や買い物客を中心に利用客数が拡大。今夏から中型バス（同40人）と大型バス（同70人）に切り替え、輸送力の増強を図っている。

シャトルバスの運行は、出したため、より大きなバスでの運行に切り替えた。平日は中型バス、土曜日は中型と大型のバスを交互に活用している。

関係者によると、利用客の約15%が訪日外国人、旅費に加え、若いカップルや家族連れら地元お土産店



2016年12月16日撮影したイオンモール常滑

住民の利用も多いという。9月は1カ月間で約2万人が利用した。今後は、旅行シーズンに合わせ増便したり、大型バスの運行を増やすことも検討するとい

バスの運行は、中部空港とイオンモールが共存する地域活性化プロジェクト「CHITA-CALABRO」の一環で実施しているプロジェクトでは、シャトルバスの運行のほかイベントの開催や知多半島の商業施設で利用できる共通クーポンの配布など、さまざまな誘客企画を行っている。

集客力向上へ地域と連携

常滑市が昨年1月にオープンしたイオンモール常滑と中部国際空港が、地域と連携して集客を図る「CHITA-CALABROプロジェクト」に取り組んでいる。モールと空港を結ぶ無料バスは予想以上に好評。クーポンやイベントなどを充実させ、互いの連携で知多半島全域の集客力を高める考えだ。

プロジェクトは、イオ付けた。イオンモール常滑を機にモールと中部空港、知多半島と空港を結ぶ無料シャトルの民間企業が参加して始まった。空港の愛称、セ折半、平日に12往復の「A」、休日に7往復の「B」をつなぎ、常滑、当初の想定を大幅に超え、今年8月は3万8千

イオン常滑と中部空港 無料バスや催し充実

と、空港会社の鈴木健一前イオンモールの岡田営業企画室長は評価。拓也GMがシャトルバスは利用者の15%ほどを提案、そこから地域をインバウンド客といふきき込み構想に話が繋がったという。岡田GMは「これからは、地域との両者が連携し動き出すのは、開業の一年ほど一緒になったモールが残



空港へ向かう無料シャトルバスに列を作る乗客。イオンモール常滑で

る時代。モールを人の集まるコミュニケーションセンターにしたい」と目標を示す。

当初、空港会社にはイオンモールの開業で客を奪われるかもしれないとの警戒感もあったが、相乗効果の方が大きいと判断。積極的な連携を進めている。

プロジェクトで両者が目指すのは、知多半島全体への波及効果。七月には、空港やイオンの店舗のほか、知多半島の十四店舗が参加し、インバウンド客が利用できるクーポン券を発行した。

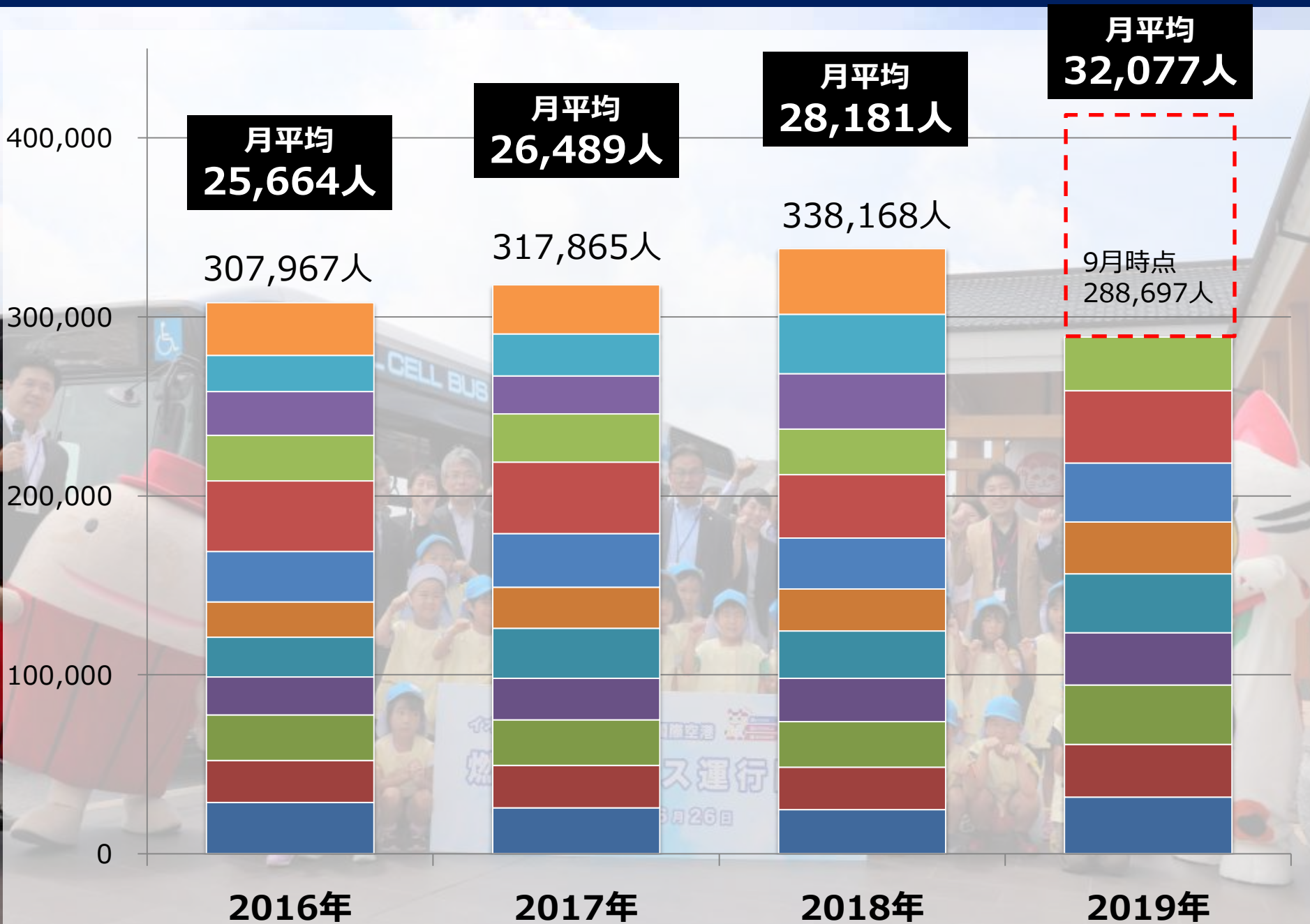
鈴木室長は「イオンと空港だけで客を吸引するのでは意味がない。『1+1』を2でなく、3にしたい。私たちが能動的になって集めた人に、知多半島を周遊してもらいたい」と、半島全域への広がりを促している。岡田GMも「プロジェクトでわれわれが植えた種は芽を出してきている。目指すのは、十年後、二十年後のまちづくり」と話す。

ちた特報 ニュースのつぼ

「CAT（キャット）と名付け、CH（知多）の冠を」の冠を、イオンモール常滑も投入するようになった。

「イオンに買い物に来た人が空港に足を延ばしたい、空港のインバウンド客が常滑の街に遊びに行ったりする手段になっている。予想以上に

シャトルバス利用実績



FC (燃料電池) バス導入

燃料電池バスが運行開始

中部空港—イオンモール常滑 6/27 中県



常滑市の中部国際空港と対岸の商業施設イオンモール常滑を結ぶ無料バスの一部に、二十六日から燃料電池車が導入され、イオンモールで関係者らによる出発式があった。

無料バスは、空港会社とイオンモールが地域活性化を目指して企画。委託を受けたバス会社の知多乗合が平日十二往復、土日祝日二十七往復を運行しており、昨年度は月平均で二万八千

人の利用があった。

燃料電池バスはこのうち

水曜日以外の十一往復とほか

の曜日より本数は減るが、

バスの定員が七十七人と以前より増えるため、輸送力は増える。県やトヨタ自動車、空港会社、東邦ガスで

空港マスコット
燃料電池バス

H₂水素
水素社会を目指して

知多バス

つくる「セントレア燃料電池バス運営協議会」が協賛企業を募り、資金面で運行を支援する。

バス利用者の25%は訪日外国人といい、空港会社の担当者は「先端技術を実用化した燃料電池バスを訪日外国人をはじめ多くの人に体感してもらいたい」と話した。

(小西数紀)



民間企業主体での運行によるイレギュラー対応事例

2018年
9月4日
台風21号
接近

午前
空港
連絡橋
不通

イオン常滑
訪日外国人
取り残される

夕方
連絡橋再開
航空機運行
再開

バス・電車
終日運休
タクシー
いない

CHITA
CAT
臨時バス
運行

2018年(平成30年)9月22日(土曜)

空港に戻る手段がない
帰国便に間に合わない

台風で足止め 中国人客を空港島へ

イオンモール常滑 独自臨時バス対応

四日の台風21号で中部国際空港(常滑市)の連絡橋の道路、鉄道とも一時不通となり、対岸のイオンモール常滑には空港へ戻れなくなった数百人以上の中国人観光客らが取り残された。モールは同日夜、道路が通行可能になった空港島へ独自で臨時バスを運行し、これらの客を空港島へ運んだ。担当者は「今回の対応を今後の緊急時の対応に生かせる」と話している。(小西数紀)

四日は、台風が接近する午前中、多乗合に連絡を取り、午後七時に名鉄が空港線運休。風雨が強まるにつれて、連絡道路も通行止めに。三時間半、空港島は完全に孤立した。

空港とイオンモール間には、両者が共同で運行するシャトルバスや島内ホテルが運行するバスがあったが、台風の接近により運行を中止。名鉄は深夜まで運行を再開できず、空港からイオンモールを訪れていた中国人客が、午後五時半に連絡道路の通行が再開されても空港に戻れない事態になっていた。空港島内での宿泊や台風通過後のフライトを予定していた観光客から、「空港に戻れない」という問い合わせがモールに相次いだ。

モール側は、中国語の話せるスタッフが客に直接対応。シャトルバスを委託しているバス会社「知る」

また、タクシー予約も難しくかつたため、タクシー会社に掛け合ったり、外国人客向けに車を割いてもらったりした。午後七時三十分ごろには、鎮内放送でモール内に取り残された人がいないことを確認できたという。

イオンモール常滑の岡田拓也GMは「空港行きのバスに乗った人からは『これで飛行機に乗れる』『ホテルで休める』と感謝された。中国語のできるスタッフが対応したことで、情報の取りづらいつつ訪日客に喜んでもらえたのでは」と振り返り、「今回のような非常時に、モールだけでなく行政や交通関係者を巻き込んで対応する仕組みができたら良い」と提案している。





～ 自転車・バスを活用した魅力あるまちづくり ～



サイクリングを活用した 知多半島体験型おもてなしツアー



国際空港から10分で行ける「常滑」の街

到着後、乗り継ぎ、宿泊、
出発前の待ち時間など



限られた時間で観光



サイクリング 活用



旅の思い出を一つプラス

りんくう常滑駅

常滑駅

やきもの散歩道

中部国際空港駅

名古屋鉄道



CHITA CAT おもてなしツアー 概要

おもな対象	① First day : 空港に到着し、目的地に向かう前に時間のある外国人旅客 (トランジット旅客) ② Stay day : 空港周辺のホテル等に宿泊して時間のある外国人旅客 ③ Last day : 出国前に時間のある外国人旅客
催行日	2017年 7月 7日 (金) から 年末年始 (12月29日~1月3日) をのぞく毎日
主催	株式会社知多半島ナビ CHITA CATプロジェクト (構成 : セントレア、イオンモール常滑、常滑市、常滑商工会議所ほか)
協力	金城学院大学、エアアジア・ジャパン
発着	セントレアTourist Information & Service 1~4時間 全9コース (サイクリング、徒歩)
申込み	事前予約制 (WEBフォームにて前日15時まで) 対応言語 : 英語、中国語、日本語



TOKONAME EXPERIENCE

OMOTENASHI TOUR

中部国際空港から10分で着く 日本遺産の街 常滑へ行こう!
 In ten minutes from Chubu Centrair International Airport
 Let's go to Tokoname, the city of Japanese heritage!
 從中部國際機場新特麗亞10分到達去日本遺產的街・常滑

日本遺産 日本的遺產
 Japan heritage

サイクリング 自転車旅行
 Cycling

散策 散歩
 Walking around

体験講座 體驗講座
 Personal experience

常滑駅 Tokoname Station 常滑站
 りんくう常滑駅 Rinku Tokoname Station 觀望常滑站
 中部國際空港 セントレア Chubu International Airport Station
 中館國際機場 新特麗亞

常滑の街まで 10分

10 minutes to Tokoname city
至常滑市街巷10分鐘



セントレア周辺に滞在する観光客を知多半島へ誘客

金城学院大学との連携 おもてなしサポーター

金城学院大学と中部国際空港との「産学連携包括協定」に基づき、英語英米文化学科と連携し、学生が実践語学を活かす場を提供するとともに若い発想を存分に活かしたサービス展開。

知多半島ナビ（運営側）課題



- 地元のことをよく分かっているガイドはいるが、外国語が話せるスタッフがいない。
- SNSなど新たな情報発信ツールの活用が苦手。
- 若者目線でのエリアの魅力に気づいていない。



金城学院大学（学生側）メリット



- 外国人と直接接し、外国語を利用できる。
- 地域振興に参画できる。
- 地域振興を行うメンバー/自治体の活動に触れ、知多半島の内側を知ることができる。
- 観光ガイドであるため、完璧な通訳レベルが求められているわけではない。
- 学業優先で対応可能（前日まで予約制）
- 若者の意見を組み込むことができる柔軟な受け入れ組織である。

地元案内人

語学はできないが地元のことをよく知っているガイド



おもてなしサポーター

英語実践経験を求める学生

社会に、地域に
学びを分かす。

KINJO
ACTIVE

外国人旅行客におもてなし。 ボランティア・ガイドに挑戦!



CHITA CAT OMOTENASHI TOURへの協力

ツーリズムや通訳・翻訳の学びを
地域活性化に生かしたい

金城学院大学と中部国際空港との連携プロジェクトの一つとして、本学科の学生が「CHITA CAT OMOTENASHI TOUR」のボランティア・ガイドを担当することになりました。このツアーは、空港と常滑市などが地域活性化のために立ち上げる「CHITA CATプロジェクト」の一環、外国人旅行客に、滞滞時の時間を活用して市内を観光しながら地域の歴史や文化を体験してもらうことが目的です。ツアーの運営は、株式会社知多半島ナビが実施。ボランティア・ガイドを務めるのは、ツーリズムを研究する田村ゼミと通訳・翻訳を学ぶ水野ゼミの学生です。

常滑の歴史や文化を
経てこそ見立つ英語力

常滑市は「焼き物のふるさと」と呼ばれ、ツアーではやさみの散歩道で窯裏を見学したり、焼き物の給付体験をしたりするコースがメインですが、他にも歴史的建造物の見学、着物の着付け体験、抹茶を楽しむなどの体験など、日本文化を堪能することが出来ます。ガイド業務の事前研修では、実際にツアーコースを歩きながらプロのガイドさんの説明を聞き、地域の歴史や文化、伝統産業について学びました。窯とところにいる焼き窯に驚き、江戸時代からある陶船問屋「陶田



事前研修で訪れた製陶問屋「陶田窯」にて



中部国際空港内にある外国人向けの「Tourist Interaction & Service」で事前研修を受ける学生たち。

家」のたすまいに感心するなど、知多半島に貴重な文化的遺産が数多くあることに初めて気づいた学生も多く、新しい知識を得る喜びを感じたようです。そして、今まで培ってきた英語力も、知識があつてこそコミュニケーションに役立つことを深く理解しました。「楽しいけど、勉強しなしゃ」。これが学生たちの実感です。

外国人の来日が楽しみな学生たち

このプロジェクトは始まったばかりです。これから来日する外国人旅行客にこのツアーが知られるようになれば、学生たちが活躍する機会も増えることでしょう。「日本を訪れる外国の方たちに、日本や知多半島の魅力を知ってもらい、「ぜひ、また来たい!」と書いてもらいたい」。学生たちは今、そんなワクワクした気持ちでいっぱいです。



やさみの散歩道にある「土管坂」にて

◎非常勤員からのメッセージ
水野 真木子 氏

専門：通訳翻訳学(特に中国・ロシア・韓国、英語通訳)

本学科の学生はとても元気です。英語スキルが実用し、課題も多いので大変だと思うのですが、毎日、意欲的に学んでいます。そして、自分の能力を生かせるキャリアを一歩ずつ続けたいと願い、夢に向かって努力しています。だからこそ、グローバル社会で活躍できる幅広い人間力を持った人材が、この学科から数多く育っているのだと思います。



中部国際空港から10分で着く半島「知多半島」で、お客様をお出迎えるサービスが始まりました。その名も、CHITA CAT OMOTENASHI TOUR。空港側だからこそ提案できる、少しの時間で楽しめる、もうひとつの旅。あなたも体験してみてください!

今回、本ツアーのおすすめスポットを、現役CAさんが体験してくれました!



おすすめスポット 1

常滑やさきもの散歩道 観光エリア

窯裏の見学につづられていた時代の歴史が感じられる観光エリア、やさきの散歩道。レトロの街並み、中央のブナ林、色とりどりな焼物や伝統的なお土産。そして土管や常滑の歴史を学べる見学のスポット。ここが、特別な思い出の場所になっています。最近ではコンテナも通じて賑やかな観光エリアになっています。今度こそぜひ訪ねてみてください。



土管坂

常滑市を歩くと、交差点に建つレンガ造りの日本製陶館の建物が目を惹きます。大きなレンガの壁が印象的で、その中には、常滑焼づくりに関する歴史や、様々な窯場が数多く見えます。特に、お土産をテーマにした展示も多く、窯のお土産を贈る楽しみも増えます。ここが、お土産を贈る楽しみも増えます。ここが、お土産を贈る楽しみも増えます。ここが、お土産を贈る楽しみも増えます。

住所：愛知県常滑市高井7丁目3番6号
電話番号：0569-25-3213
営業時間：9:00 - 15:00
WEB：www.tokoname.jp/~yamato



土管坂休憩所

常滑市を歩くと、交差点に建つレンガ造りの日本製陶館の建物が目を惹きます。



サイクリングコース① 日本遺産「登窯」と絵付け体験 3時間

- セントレア
- 中部国際空港駅
- 常滑駅
- ペダルハウス
(バイクレンタル)
- 登窯
(やきもの散歩道)
- 体験** ヤマトネ
(絵付け)
- 体験** 相持院
(鐘つき)
- 暮布土屋通り
- 招き猫通り
- 海岸線サイクリング
- ペダルハウス
(バイク返却)
- 常滑駅
- 中部国際空港駅
- セントレア

¥7,500





サイクリングコース② 日本遺産「登窯」と写仏体験 3時間

セントレア

中部国際空港駅

常滑駅

ペダルハウス
(バイクレンタル)

登窯
(やきもの散歩道)

体験

大善院
(写仏)

暮布土屋通り

招き猫通り

海岸線サイクリング

ペダルハウス
(バイク返却)

常滑駅

中部国際空港駅

セントレア

¥7,500





サイクリングコース③ 日本遺産「土管坂」とタイル博物館 3時間

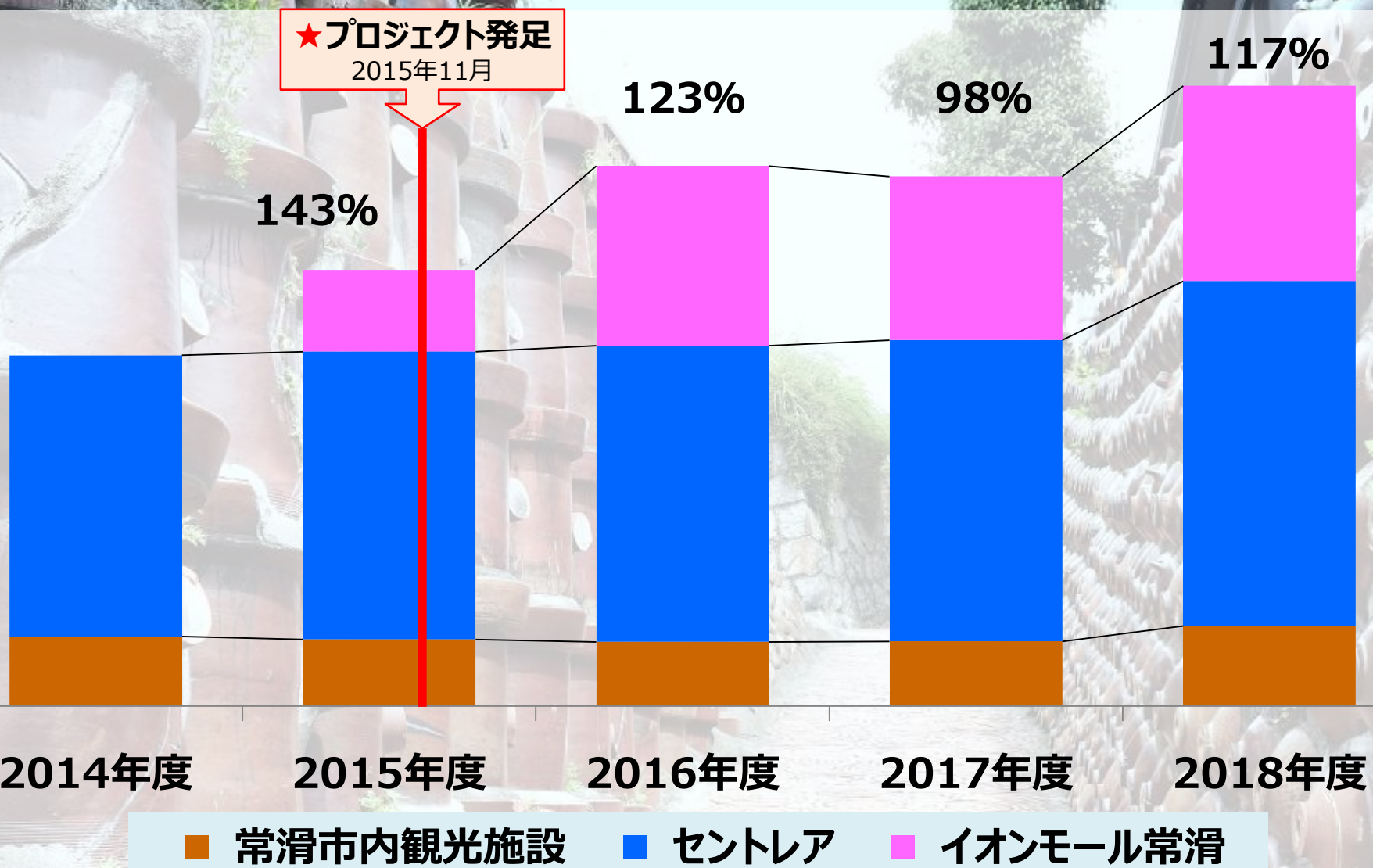
- セントレア
- 中部国際空港駅
- 常滑駅
- ペダルハウス
(バイクレンタル)
- 土管坂
(やきもの散歩道)
- 体験** INAXライブミュージアム
タイル博物館見学
- 暮布土屋通り
- 招き猫通り
- 海岸線サイクリング
- ペダルハウス
(バイク返却)
- 常滑駅
- 中部国際空港駅
- セントレア

¥7,500



効果〔常滑市街地観光施設/セントレア/イオンモール常滑の観光入込客数の推移〕

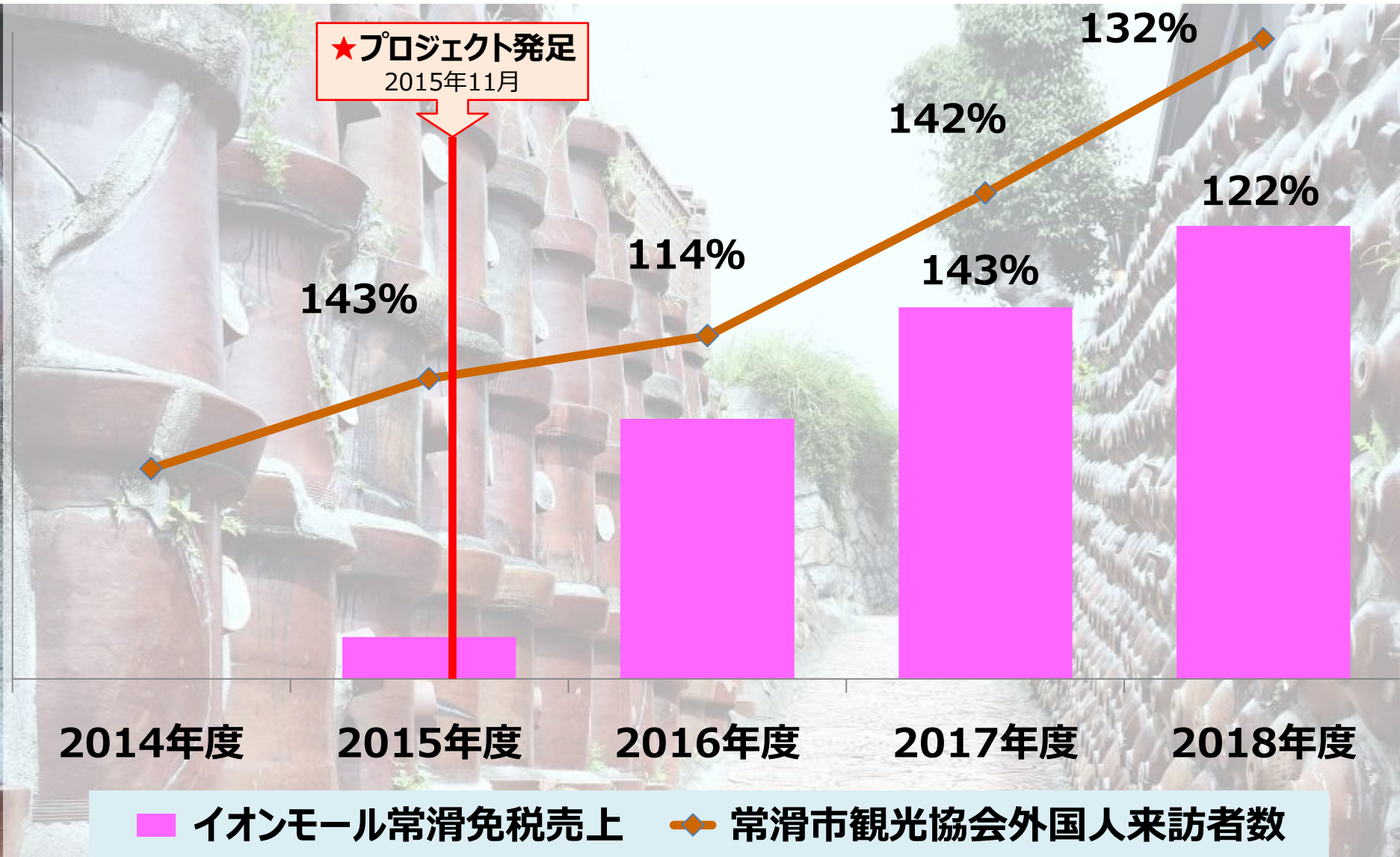
※ 常滑市の集計対象は観光施設客数のみであり、商業施設は含んでいない。 ※ セントレア来港者数は、航空旅客含む。



大型施設の集客力をフックにエリア全体への誘客/賑わいの相乗効果を生み出している

効果 〔常滑市街地/イオンモール常滑のインバウンド入込客数の推移〕

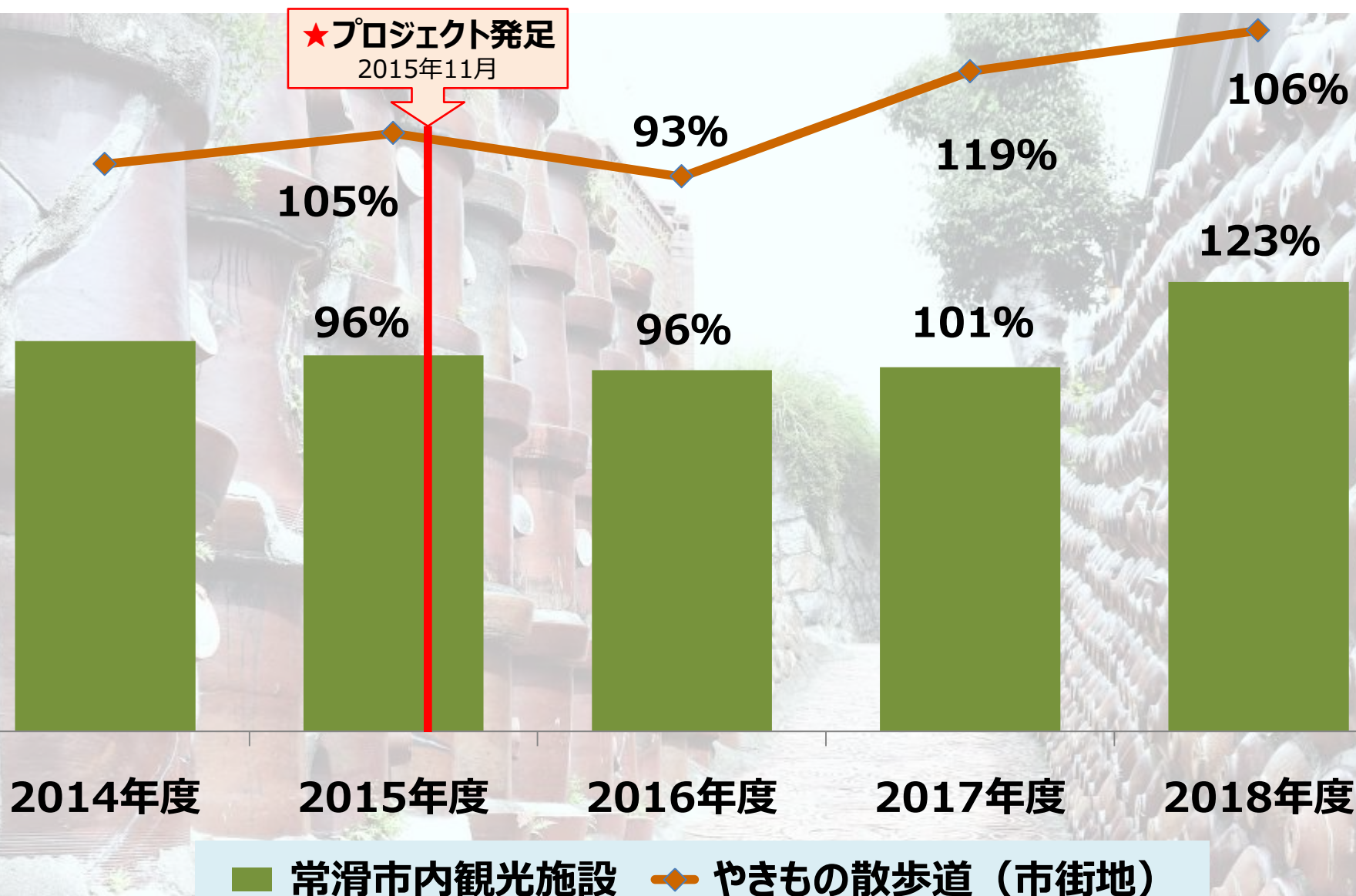
※ 常滑市の集計対象は観光施設客数のみであり、商業施設は含んでいない。



プロジェクト発足以降、りんくうエリア、常滑市街地への訪日外国人観光客が急増

効果〔常滑市（市街地）観光施設への入込客数の推移〕

※ 常滑市の集計対象は観光施設客数のみであり、商業施設は含んでいない。



やきもの散歩道観光客数は、年々減少傾向にあった中、施策効果により賑わいを回復しつつある

行政における観光振興にかかる中長期計画

常滑市の中長期計画「常滑市観光振興計画」や、「常滑商工会議所長期ビジョン」にも『CHITA CATプロジェクトとの連携』が明文化され、「エリア一体を、各施設それぞれの点ではなく、面で捉えることで、常滑の伝統と未来が融合した新たな形にしていく」というまちづくりは、行政、地域経済界のプレイヤー、そして地元市民が一緒になって発展させていく取組として中長期的に期待されている。



中部空港 飛躍 第2章

愛知 知県常滑市沖に浮かぶ中部国際空港。空港島内では、ボーイング787の初号機を展示する「フライト・オブ・ドリームズ」が12日にオープンし、ホテルの新規開業や増床も続く。開港15年目となる2019年度は、格安航空会社(LCC)向けターミナルや泉国際展示場が開業予定で「第2の開港期」となりそうだ。

01 空港+イオン+常滑=半島活性化 CHITA CATプロジェクト

空港周辺の地域活性化策として注目を集めるのが、空港対岸にあるイオンモール常滑。そして地元常滑のメンバーが一緒になって取り組む「CHITA CATプロジェクト」だ。「CAT」は、常滑特産の招き猫にちなみ「CENTRAIR(セントレア)」「AEON(イオン)」「TOKONAME(常滑)」の頭文字から取った。

中でも好調なのが、空港とモールを結ぶ無料シャトルバス。二〇一五年から運行し、連絡橋の利用料を払う必要なく、徒歩とモールの行き来できる。現在は日一万人が利用し、飛行機の搭乗までの待ち時間を過ごす外国人観光客の姿も多い。九月末にモールが完成した「お笑いEXPO」もプロジェクトの主眼。人気のお笑い芸人が集まり、地元のグルメや名産品のPRにこぎつけた。

他にも訪日外国人がモールや空港、知多半島の飲食店で割引を受けられるクーポンを発行したり、搭乗待ちの外国人に常滑市内のガイド付き体験型ツアーを提供したりと取り組は多彩。知多半島の活性化を図り、中部空港の魅力を高めている。

イオンモール常滑の岡田拓也ゼネラルマネジャーは「空港、イオン、地元が同じ方向に向かうことで輪になって地域の発展につなげられれば」と期待する。



▲シャトルサイトで海岸を周遊するCHITA CATプロジェクトの体験ツアー ●常滑市内のやきもの散歩道巡り



建設が進む愛知新国際展示場(手前)と新築や増床が相次ぐホテル。本誌へもまなづる。>

02 ホテルの新

中部国際空港島内、倍増するホテル。一日、業、十、百十九、来、エ、者、と期待す

ご清聴ありがとうございました。



常滑お笑いEXPO 
TOKONAME OWARAI In 知多半島